

しもだの軌跡

原始・古代～近世

当地に人の営みがはじまるのは、中野平遺跡で見つかった縄文時代早期の竪穴式住居跡から、およそ八千年前頃と考えられる。ここで暮らした人々は、網で魚をとり、貝殻で飾った土器で煮炊きをしていた。

時を経て古代には、阿光坊古墳群とそれを支えた村々が栄える。刀や弓で武装し、絹を着、銀色に輝くアクセサリーを身につけた人々。史書には野蛮な記録しか残らないが、農耕・馬産に従事し、高度な文化をもっていたことが明らかになっている。

中世の姿は詳らかではない。しかし、木崎野の牧として名を馳せる。木崎・間木・耳取と現在の地名にも名残がみられる。馬の神様として知られる氣比神社の創建はこの頃と伝えられる。また、都から落ちてきた佐々木盛綱が開墾に苦労した話や、義経の家来が住んだ屋敷などの伝説が伝わる。

下田将監家の所領となる近世には、静かな農村の営みがあった。百石から木ノ下、鷗久保を通り、下北へ至った北浜街道には一里塚が作られた。

寛政の頃(十八世紀末)に書かれた邦内郷村志には『下田村は民戸二百十軒。内十四軒洗平、十軒新関、四軒赤田、十軒阿光坊、二十二軒三本木、二十二軒木苗内、四軒染屋、十軒間木、十九軒木崎、七軒耳取、十七軒秋藤、二軒土樋、二軒土用屋敷、三軒前宋瀬、十二軒木之下、八軒鷗久保、三軒古間木、二軒駒ヶ沢、三軒七百』とある。村は今と違い三沢や六戸に及んでいた。





大正時代／木内々尋常小学校卒業式



明治時代／役場庁舎



大正時代／消防団(現在の第2分団神明宮前にて)

明治元年
明治2年
明治4年
明治5年
明治6年
明治11年

明治14年

明治16年
明治17年
明治20年

明治22年

明治24年
明治26年
明治28年
明治31年
明治32年
明治34年

盛岡藩滅封移封のため、一時弘前藩取締地となる
七戸藩領に繰り入れられる
七戸県誕生、弘前県に合併し、青森県と改称
北区六ノ区下田村
第七大区五小区下田村
下田本村聖福寺を仮校舎にあて小学校創立、日進小学と称す
上北郡下田村(区制廃止、郡制施行)
下田小学と改称し、木内々に本校、下田本村に南分校、木ノ下に北分校を置く(初等科3年・中等科3年)
百石村と連合、上北郡第十一組戸長役場
百石村外一カ村戸長役場
下田小学校を木内々尋常小学校、南分校を下田尋常小学校、北分校を木ノ下簡易小学校と改称
町村制施行により、百石村と分かれ、下田村役場設置
下田駅開業
下田郵便局設置
コレラ流行のため避病院設置
村医所設置
下田村農会設置
赤痢流行のため隔離病舎建設

世の中の出来事

明治22年
明治23年
明治27年

大日本帝国憲法発布
第1回総選挙
日清戦争

